

製品名: AT1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07235**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	AGTR1
別名	AGTR1; AGTR1A; AGTR1B; AT2R1; AT2R1B; Type-1 angiotensin II receptor; AT1AR; AT1BR; Angiotensin II type-1 receptor; AT1
遺伝子 ID	185.0
SwissProt ID	P30556
免疫原	抗血清はヒト AGTR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

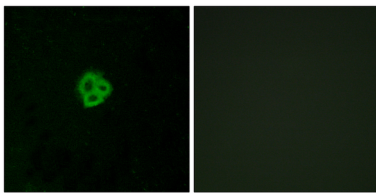
アンジオテンシン II は強力な昇圧ホルモンであり、アルドステロン分泌の主要な調節因子です。心血管系において血圧と体液量を制

御する重要なエフェクターであり、少なくとも2種類の受容体を介して作用します。この遺伝子は、アンジオテンシンIIの主要な心血管系作用を媒介すると考えられている1型受容体をコードしています。この遺伝子は、虚血または梗塞心筋への血流回復後に生じる再灌流性不整脈の発生に関与している可能性があります。以前はAGTR1Bと呼ばれる関連遺伝子が存在すると考えられていましたが、現在ではヒトには1型受容体遺伝子は1つしか存在しないと考えられています。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングによる転写バリエーションが報告されています。[RefSeq提供、2012年7月]、疾患：AGTR1の欠陥は腎尿細管形成不全(RTD)の原因となる[MIM:267430]。RTDは、持続性胎児無尿および周産期死亡を特徴とする常染色体劣性遺伝性の重篤な尿細管発達障害であり、早期発症の羊水過少症(ポッター表現型)に起因する肺低形成が原因と考えられます。機能：アンジオテンシンII受容体。ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化するGタンパク質と結合することで作用を媒介します。オンライン情報：アンジオテンシン受容体のエントリ,オンライン情報：シンガポールヒト変異・多型データベース,PTM：C末端のセリンまたはスレオニン残基がリン酸化される可能性があります。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。組織特異性：肝臓、肺、副腎、副腎皮質腺腫。、

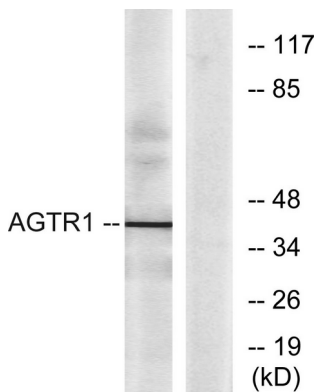
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;血管平滑筋収縮;レニン-アンジオテンシン系;

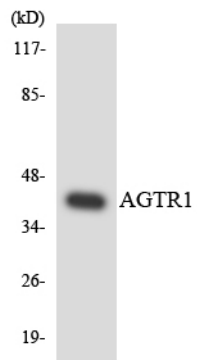
画像データ



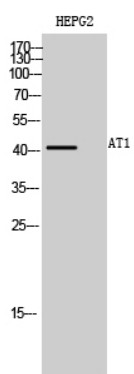
AGTR1抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



AGTR1抗体を用いたK562細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



AGTR1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



1: 500 希釈の AT1 ポリクローナル抗体を用いた HEPG2 細胞のウェスタンブロット解析